

社会教育委員ニューズレター 第15号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
 事務局 佐賀県民環境部まなび課内

県社教委連第1回理事会

5月10日、年度初めの理事会を開催しました。

協議事項として、令和4年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員案、令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度活動方針案、令和4年度事業計画案及び収支予算案等について協議し、総会に諮る事が決定されました。

「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、2名の方の表彰が決定されました。

また、今年度は新役員の任期が始まることもあり、役員それぞれの地区における活動状況や課題等について情報提供を行い、活動方針等について意見交換等を行いました。その中で、学校と地域コミュニティとの連携した活動による学校や地域の活性化等の報告がありました。

令和4年度 佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役職	氏名	所属	地元での活動等
会長	上野 景三	佐城（佐賀市）	社会教育委員等
副会長	山口 ひろみ	県社会教育委員	子育て支援・体操活動
副会長	竹下 勇	藤津（鹿島市）	社会教育委員長
理事	庄嶋 巖	三神（神崎市）	社会教育委員
理事	緒方 哲哉	唐松（唐津市）	PTA 連合会会長
理事	山口 良子	杵西（武雄市）	ハナマル活動等
監事	重松 規昌	三神（上峰町）	社会教育委員長
監事	池田 豊子	杵西（伊万里市）	社会教育副委員長

県社教委連総会

6月1日、神崎市千代田文化会館はんぎーホールにおいて開催しました。

○開会行事

上野会長から、G I G A スクール構想の実施に伴う学習環境の変化や、コミュニティスクールの推進などにより地域と学校の新しい連携の強化が求められており、社会教育委員として果たすことができる大きな役割があると挨拶されました。

また、佐賀県民環境部の諸岡副部長が来賓の祝辞の中で、日頃の委員活動に対する感謝等を述べられました。



○県社教委連表彰

平成30年度から創設した標記表彰について、今年度は2名の方を表彰しました。

***受賞おめでとうございます。**

鳥栖市 山口由美子氏（12年）
 有田町 吉永秀明氏（11年）

（ ）は、社会教育委員在任の期間

【表彰基準】

社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった者

上野会長の向かって左側は山口さんです。右側は吉永さんの代理の方です。



○議事

議長に多久市の野田委員が選出され、議長進行のもとに次の4議案について審議され、異議なく承認されました。

第1号議案

令和3年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について

3年度は全社連の会議が書面開催、研究大会がWEB開催となり旅費等の支出がなかったことから、基金からの繰り入れは必要ありませんでした。

実践研修会を1月に開催し、多くの社会教育委員や行政職員の参加がありました。

重松監事から監査報告が行われ、適正に処理されていたことが報告されました。

第2号議案

令和4年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

1頁の表のとおり令和4年度の役員が承認されました。

第3号議案

令和4年度活動方針案について
今年度の活動方針案について

は、次のとおりです。

特に1項目目は、佐賀県社会教育委員の会議の提言内容に沿った方針案になっています。

《令和4年度活動方針》

一 コロナ禍によつて子どもたちを取り巻く環境は大きく変化している。社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。

二 ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。

三 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

四 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

第4号議案

令和4年度事業計画並びに予算について

10月に九州ブロック社会教育研究大会大分大会、全国社会教育研究大会広島大会、1月に県社会教育委員実践研修会が開催予定です。

基礎研修会

総会終了後に基礎研修会を開催しました。

まず、上野会長が「社会教育委員の基本的役割」について、新任の社会教育委員にもわかりやすく説明されました。

つぎに、山口副会長の子ども支援の活動等に関するトークセッションの中で社会教育委員の役割についての理解を深めました。

■基礎講座

（導入）社会教育委員が地域で選ばれる現状や社会教育委員の会議に参加したときに感じることなどについての話があり、参加者の共感を呼びました。

（本論）社会教育に関するさまざまな法律制度、社会教育施設（図書館や公民館等）及び委員会・委員についての説明がありました。

社会教育委員は社会教育法の規定により置かれ、教育委員会が委嘱し、その職務は、教育委員会の

会議での意見陳述や社会教育関係者に対する助言等を行うことです。

また、教育行政と住民をつなぐ基本的な役割があります。社会教育に関する計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ意見を述べること、これらのために研究・調査を行うことも行政と住民をつなぐ重要な役割であることの説明がありました。

（県等の取組）最後に、佐賀県社会教育委員連絡協議会の活動方針等を確認しました。本方針は地域の課題を踏まえて議論し、決定したものです。



■トークセッション

【パネリスト】

○上野景三さん（進行）

西九州大学子ども学部長

○山口ひろみさん

NPO 法人唐津市子育て支援情報センター長



（社会教育との出会い）

最初は社会教育とは何かも知らなかった。子育て支援活動をやっておろ、NPO 法人を立ち上げるときに市役所の生涯学習の担当者から「今後、活動するうえでいろいろなることを知っていたほうがいいから一緒に勉強しないか」との誘いがあった。

子ども達のことを考えている人がたくさんいることや一緒に学ぶことが楽しいということに気づいた。

また、アバンセ（佐賀県立男女共同参画センター・生涯学習センター）の講座も受け、学んだことを地元でフィードバックした。



地域； local への関心
学び； learn への気づき

（活動内容と視点）

その中で「自分にできることは何かないか」と考え、子どもが小学生であったことから、まず、子どもクラブやPTA 活動に参加することにした。

また、子育てサロンを通して地域の0〜2歳児を持つ親と中学校をつなぐ役割をした。

中学3年生の子どもたちも生き生きとした表情となり、地域にもよい影響を与えた。

ほかに一中学校・四小学校及

び公民館が協力して作った五校にここに元気体操を通じた地域まちづくり活動をしている。

地域の人が笑顔で元気になったらいいなという思いがあり、まちづくり協議会へ提案して始めた。体操を広めるため、地域の高齢者や校長先生などできるだけ多くの人）に参加してもらって動画（YouTube）を作成した。

（社会教育委員の役割とは）

地域の課題について、公民館や地域の人々を巻き込んで解決を図っていたきたい。地域と行政の橋渡しをしていくのも社会教育委員の役割だと思う。



新たな活動（移動）； locomotion へ

アンケートの内容

基礎研修会終了後に御記入いただいたアンケートでは、委員の8割、職員の9割の方が参考になったという回答をいただきました。その一部を掲載します。（構成上、記載内容を要約しています。）



○今後の活動等

・初めて委員になったが、どのよう
に職責を果たしていけばよいか
わかった。地域に貢献していき
たい。

・市職員からの依頼で委員になっ
たが、立ち位置が少し理解でき
た。役にたてればと思った。

・委員の役割等を悩んでいたが、
研修をうけてスッキリしてきた。
自分にできることをやっていき
たい。

・学校教育と社会教育の連携推進
に努めていきたい。

・地域に目を向け、気にかけて活
動していきたい。

・楽しんでやるのが大切と思う。

○基礎講座

・基礎講座がわかりやすかった。

・基礎知識を得ることができ業務
の参考になった。

・社会教育委員の役割や法的な仕
組みがわかった。

・基礎を学ぶ時間がなかったため
有意義であった。

・地域に開かれた学校づくりには
社会教育委員の役割は大きい。

○トークセッション

・子育て支援活動等に対する視点

がよかった。

・活動を聞いて刺激を受けた。
・実践を踏まえたトークセッション
で良かった。

第52回九州ブロック社会教育研究大会大分大会概要予告

開催趣旨の概要

新たな時代の到来に向け、社会
教育や公民館活動が地域づくりや
人づくりのためにすべきことや、
できることを考える契機とする。

研究テーマ

「協育」で人と人との絆を紡ぐま
ちづくり
く地域の持続的発展のために社会
教育が目指すもの

期日

令和4年10月6日(木)

分科会

- ① 社会教育の役割
- ② 青少年育成
- ③ 地域人材の育成
- ④ 高齢者の学びの在り方

令和4年10月7日(金)

全体会

会場

J・com ホルトホール大分

第64回全国社会教育研究大会
広島大会 概要予告

開催趣旨の概要

「人生100年時代」や「Society
5.0の実現」、コロナ禍に伴う「新し
い生活様式」など、社会全体が急
速に変化する中、より複雑化する
課題に直面しており、多様な主体
と連携・協働することが、一層求
められている。大会スローガンに
ある「百万一心」は、広島ゆかり
の名将、毛利元就が残した「心を
一つに協同一致して事を行う」と
いう意味の名訓であり、社会教育
が目指す「連携・協働」「開かれ、
つながる社会教育」に通じるもの。
皆様と心(目的・目標)を一つに
して、「未来を創造する社会教育を
実現しよう」との思いを込めた。

大会スローガン

多様性を生み出し百万一心の心根
で未来をつくる社会教育！

研究主題

これからの時代を見据えた学びの
デザイン

くニューノーマル時代における社
会教育の在り方

期日

令和4年10月27日(木)

全国社教連総会・開会行事・
記念講演・シンポジウム

令和4年10月28日(金)

分科会

- ① 地域学校協働活動
- ② 家庭教育支援・子育て支援
- ③ 人生100年時代の社会教育
- ④ 社会教育施設の役割

会場

広島国際会議場 ほか

「社会教育委員としての想い」

小城市 社会教育委員

永ノ間 康 成

私は、昨年の四月から市社会教育委員を拝命し、会議等に参加させていただいています。

仕事で社会教育・生涯学習の分野に昭和五十七年四月からの小城市公民館勤務を皮切りに約十五年程携わらせていただきました。

小城市は、平成十七年三月に旧四町（小城・三日月・牛津・芦刈）が合併しましたが、合併前の各町の公民館には個性ある諸先輩方が凌ぎを削るかのごとく「よその町には負けん！」という想いで頑張っておられました。その先輩たちは、殆どが十年選手と言っているほどの強者ばかりでした。

当時は、研修会や郡公連（小城市公民館連絡協議会）の会議など終われば、決まって「懇親会」があり、今思えばその会での会話の内容が非常に有意義なものだったと感じています。

雑談から始まり、お酒が進むにつれ仕事（社会教育）の話へと展開していききました。懇親会の約六割程度は仕事の話、言わば「第二の研修会？」であったと感じます。

そんな懐かしい時代もありましたが、時代が移り社会情勢も少子化・高齢化・長寿社会・情報化へと進展し、社会の構造が大きく様変わりしました。

「社会教育」と言われた時代から、自ら興味や関心・趣味嗜好のあるものを選択し、より充実した人生（生活）を送るために「生涯学習」へと大きく転換していったように思います。

教育というと、学校のイメージが強く、「教わる」「教える」を連想させます。しかし、今は自ら学ぶという自己の思いを優先させた「生涯学習」の時代であると感じます。

今や、情報にあふれ、情報の荒波の中に私たちは生きていくというイメージすら感じます。好きなこともたくさんある一方、嫌いなこともたくさんあります。その荒波の中、自分を見失うことなく、

少しでも楽しい充実した人生が送れたらと思います。私たちのような中高年世代には今の便利ではあるが、一方で複雑な社会になかなかついて行けてないのも事実かもしれません。

いずれにしても、複雑多様化した現代社会の中で、あらゆる世代の人が望む「生涯学習メニュー」をいかに準備してやるかが、生涯学習に携わる者にとつての使命ではないかと思うとともに、そのメニューをどのように展開していくかも非常に重要であると思います。

私も、社会教育委員として今後、微力ながらも何らかのお手伝いできればと思っています。



公民館での講座の様子

「地域社会のあり方を考えよう 『地区懇談会』の果たす役割」

神崎市 社会教育委員

平野 禎 亮

コロナ禍の厳しい環境の中、2021年「東京オリンピック・パラリンピック大会」が開催され、選手たちの頑張りにより多くの感動を得たのは私だけではなかったと思う。57年前にアジアで初めて開催された東京オリンピック・パラリンピック大会の当時、私は小学生6年生だった。戦後の荒廃から繁栄へ一気にせり上がった日本が、少しずつ活気を取り戻そうとしていた時代。

その当時「向こう三軒両隣」の言葉があった。自分の家の向い側3軒と左右の2軒の家とは特に親しく交際をしていた。いろいろなお願い事をお互いが頼み合っていた。隣のおじさん、おばさんから、様々なことで声掛けをもらっていた記憶がある。人と人のつながりが濃密な時代であった。

戦後の物のない時代と、経済が

発展し「物の豊かな時代」となってきた今では、当然地域の支え合いの形も異なると思うが、物が豊かになると並行して、人と人のつながりが・地域の支え合いが、少しずつ希薄になってきたような気がする。

2020年度の国勢調査が公表された。日本の総人口は1億2622万人で、2015年調査より86万8千人の減少。同じく佐賀県の人口は81万2013人で、同年調査より2万819人の減で、5回連続減少している。だが佐賀県での世帯数は31万2111世帯で前回より1万2世帯増加している。平均世帯人員数は1950年では4.97人、2020年では2.60人となり、2030年には2.27人と予想され、年々一世帯の人数が減ってきて核家族化が進んできている。そのため、家の中でつながりやかかわりが徐々に少なくなってきた。他にも情報化の進展、少子高齢化、価値観の多様化など社会環境の大きな変化が現れてきている。神崎市においても、少子高齢化が進み、子どもがいる世帯が少なくなり、家に子どもがいない家庭が増え、子どもや学校とのつながりを持つ

機会がない人が増えてきている。

このような状況の中、神崎市では神崎市青少年育成市民会議の主催で、「地区懇談会」が7月の初旬・時間は夕方の7時30分から1時間くらいで、平成19年度から毎年開催されている。(※但し、年度により台風や令和2年度は新型コロナウイルスの影響で開催が中止になったこともあった。令和3年度は参加者を限定し子どもたちの参加なしで開催された。一部開催しない地区もあった。)

神崎市内の公民館毎に地区の役員や地区の方たちが集まり、青少年をめぐる問題は大人社会の在り方に関わる問題との観点に立ち、大人自身の意識改革を図り、地域の教育力を高めるとともに、子どもたちに社会参加を促しながら、夢や希望を持たせ、心豊かにたくましく自己形成していくことを支援するために、市民総ぐるみで具体的な活動内容を話し合い青少年の育成に取り組んでいる。

地区の小学生や中学生の子どもたちも集まり、話し合いに参加する。懇談会の内容は、地区のい

いところ、もつと地区を良くしたいところ、我が家でこんなことをやっていることの紹介、交通安全等の課題、地区内の危険箇所の確認などについて情報交換がなされる。話し合ったことについては、地区内で共通理解が図られる。

懇談会に地区の子どもたちも参加していることで、次のような相乗効果も生まれる。参加している大人の人と初めて顔を合わせる子どもたちは、これまで道で顔を合わせてもあいさつをしなかったが、近所のおじさん・おばさんだと分かり、次に会うときにはあいさつや話しをすることができようになる。お互いが知り合いになることの大きさがある。

神崎市で行われている「地区懇談会」は、人と人のつながりが希薄になってきている中、地区の中で人と人をつなぐきっかけづくりになっていると考える。「向こう三軒両隣」時代の支え合いの生き方がすべてよしとは考えられないが、より良い地域社会をつくるため、何らかのヒントがあるような気がする。

「地域の子どもは地域で守り、育

てましよう」のキーワードで開催されている「青少年育成『地区懇談会』」は、大人の意識改革を図ると共に、地域の子どもの関りを深める上で大きな役割を果たしている。神崎市民総ぐるみで子どものことを考える「地区懇談会」が開催されていることは意義あることだと考える。

私自身、社会教育委員として、また神崎市民の一人として、微力ながら子どもたちの健全育成に関わっていききたいと思う。



地区懇談会の様子

「社会教育委員としてできること」
を

みやき町 社会教育委員

向井 敏子

数年前から、みやき町コミュニティセンターこすもす館のロビーには、六月下旬になると大きな笹飾りが取り付けられます。笹の枝には色とりどりの折り紙などで作られた飾りや、願い事を書いた短冊がびっしりと結びつけられています。この笹飾りは、土曜日に開催される「子ども教室」の中で、子どもたちと婦人会が毎年一緒に作成しているものです。ロビーの机には、こすもす館を訪れた方が自由に願い事を書けるように短冊と筆記用具を置いてあります。子どもから大人まで、来館された多くの方が願い事を思い思いに短冊に書いて笹に結び付けて行かれます。子どもたちの将来の夢、欲しい物などが書かれている短冊に交じり、家族や祖父母の健康や幸せを願う文章を目にすると温かい気持ちになります。

私がみやき町の社会教育委員に

就任してから十年以上になります。が、長年にわたり婦人会の会長も務めています。婦人会では防災や交通安全の取り組み、更生保護ボランティアなど様々な活動を行っており、青少年健全育成、子どもの居場所作りも大きな活動の柱として取り組んでいます。

子どもの居場所作りの取り組みとしては、町の社会教育課と連携して「子ども教室」での指導にあたっています。みやき町では年間十回程度、土曜日に校区ごとで「子ども教室」を実施しており、私が指導にあたっているのは北茂安校区の子どもたちを対象とした「茂安っ子いきいきスクール」です。手芸教室を指導しており、ビーズアクセサリーや小物作りのほかに、羽子板やクリスマスリースなど季節に合わせた作品作りをしています。コロナ禍なのでマスク作りを教えた時は、自分の分だけでなく、「お母さんやおばあちゃんの方も作ってあげたい」と頑張っている子どもの姿に、こちらも優しい気持ちになりました。七夕が近づく時期に実施している笹飾り作りは他の教室の子どもたちも合

同で行っています。また、調理実習も合同で実施しています。調理実習では新鮮な地元食材を使用しますが、まずそれぞれの食材の説明をします。そしてそれらを使って作る郷土料理の紹介をします。調理の時は保護者の方にも出来るだけ関わっていただき、出来上がった料理を皆さんでいただきます。

子どもたちの安全確保と健やかな育成の一助になればと、子どもの登下校の時間に合わせて通学路に立ち、見守りながら挨拶などの声かけをする「愛の一声運動」も継続して行っています。これは婦人会の会員一人一人も継続して行っている運動です。

また、高齢の方に対しては敬老の日には老人福祉施設への慰問をしたり、町内の一人暮らしのお宅に手作りのクリスマスプレゼントをお届けしたりする活動も継続的に行っています。

子どもから高齢者まで様々な世代の方と接しながら、人と人との絆づくりの大切さや、あらゆる世代の方が安心していきいきと生活できる環境づくりの重要性を改めて感じているところです。

みやき町は「子育て支援のまち」、「健康長寿のまち」宣言を掲げ、様々な施策に取り組みんでいます。私も、長年の婦人会活動で培った経験を社会教育委員の活動に活かしながら、わがまちの活性化のために自分の出来ることを無理なく、息の長い活動を今後も続けていきたいと思えます。



笹飾りの様子

「社会教育としての幼児教育を考える」

太良町 社会教育委員

坪田 順子

「月の引力が見える町」これは、太良町のキャッチフレーズです。潮の満ち引きは、月の引力が大きく影響していると言われます。

干潮時現れるこの広大な干潟

がたくさんの太陽光（遠赤外線）を吸収し良質なプランクトンで豊富な海が生まれ、有明海の漁業資源がとても豊かで良質な理由のひとつと言われています。

地元出身のある人は、蟹もいろいろあるけれど、どの蟹より竹崎カニが濃厚で一番美味しいと評しています。

海の幸、山の幸に恵まれた町であり、太良町は子育て支援に力を入れ、多くの支援がなされています。しかしながら、若い人が少なく、高齢者が増え、独居老人も増えてきています。こんな中、太良町社会教育委員としての活動を考えた時、仕事柄、幼児と地域の方々との繋がりを深めていく活動が私の役割であり、子どもたちに安心して生活ができる事に感謝の心を育む事だと思っています。

その為には、自分達が住んでいる地域の事をよく知る事、また、どのようにして生活が成り立っているのかを幼児期にしっかり見聞きして学ぶ事で郷土愛が生まれてくると思います。ここ数年コロナ禍により活動が制限されてはいますが、その中でできる事を形を変

えて行っています。

園外保育に出かける時、地域の方に挨拶をする事から始まり、独居老人の方への声かけをする事でいろいろな話をしてくださいます。近くの小川の水がどこから流れて来ているのかを皆でたどっていたら「この水は、もつともつと上の方から流れて来ている」のだと言つて水源となるところまで案内され、昔は生活をするために、この水がなくてはならなかったものだという話をしてくださり「水の大切さ」を学んだ子ども達でした。竹の子の季節には、道具を持って一緒に来て来てくださり、どんなどころに竹の子が生えているかや竹の子の掘り方、食する為には茹でる時に糠を入れるといいことを教えていただきました。わざわざ糠を持参されていました。子どもは「おばあちゃん知恵袋」に感じ入り、尊敬の眼差しで見えてきました。

こうした事を通して地域の方々の交流も深まり、子ども達も親しげに声をかけています。子ども達の声が聞けるだけで元気がもらえるとの事。

子どもはそこにいるだけで周りの人の心を豊かにできる不思議な力を持っています。高齢者と子どもは、共に大切な存在であると感じます。「おはようございます。」「こんにちは」の一言から始まり、人と交わる事の大切さを学んでいます。

このように地域との関わりの中で多くの事を学んでいる子ども達が次の世代へ自ら学んだ大切な事を伝えていってほしいと思っています。

社会教育としての幼児教育を考える時、私の役割は、子ども達と地域を繋げることで心を育み、人を育てていく事であると思っています。

これからも人と人との繋がりを大切にし、郷土愛を育てていきたいと思っています。



竹の子狩りの様子

編集後記

今年の総会・基礎研修会には、昨年度より多くの皆さまにお集まりいただき、感謝申し上げます。

今号では、基礎研修会の概要を掲載しました。また、上野会長と山口副会長とのトークセッションでは実践活動についての対話の中で社会教育委員の役割などを引出すなどアンケートでも大変好評をいただきました。

さて、第11号から社会教育委員の皆さまに「わたしの社会教育委員活動」というテーマで、それぞれの委員の方の多方面での活動を興味深く記述いただいています。

基本的には市町の輪番による執筆ですが希望される場合はご連絡ください。

佐賀県社会教育委員連絡協議会事務局（佐賀県県民環境部まなび課）

〒840-8570（住所不要）

TEL 0952（25）7313

Fax 0952（25）7406

✉ manabi@pref.saga.lg.jp